シリーズ 探訪 わが町文化財 その87

茅葺（かやぶ）き屋根の文化財

茅葺き屋根とはススキやワラ・ヨシなど植物で葺かれた屋根の総称で、日本では縄文時代（約1万3000年前から約2500年前）の住居に使用されており、瓦屋根に比べてはるかに古い歴史があります。

有田川町と紀美野町にまたがる生石山(標高870m)には山頂からの360度の眺望と広大なススキの草原で有名な県立自然公園があるが、かつては周辺地域の茅取り場として人々の生活に密接した場所でした。

茅葺き屋根には、いくつかの優れた特徴があり、代表的な点としては断熱性の高さがあげられます。屋根の原料であるススキなどには空洞が多く、屋根の厚みもあって、夏は涼しく冬場は暖かいといわれています。また、吸音性にも大変優れており、雨の日に茅葺き屋根の建物の中に入ると、急に雨音が聞こえなくなるほどの静けさを感じます。この他にも通気性が良いことや、葺き替えで不要になった茅は肥料として使用できるなど、環境面でも優れていることも特徴であり、日本の気候や風土に適した屋根といえます。

しかし、現在では生活様式や社会の変化と共に茅葺き屋根は急速に減少の一途をたどっており、町内でも昔ながらの茅葺きのままの建物は文化財に指定された建物にほぼ限られています。国の重要文化財に指定されている法音寺本堂（岩野河地区）・吉祥寺薬師堂（粟生（あお）地区）・雨錫寺（うじゃくじ）阿弥陀堂（あみだどう）（杉野原地区）や県指定文化財の城山神社回舞台（二川地区）が代表的な建物です。急勾配の大きな屋根や、深い庇（ひさし）の張り出しなど、いずれもどっしりとした安定感のある姿が印象的な建物です。長い歴史の中で日本の風土に育まれ、形づくられてきた茅葺き屋根のある建物を訪れ、その伝統を感じてみてはいかがでしょうか。

茅葺き屋根の原料となるススキ（生石山）

法音寺本堂

広告 町収入の一部とするため有料広告を掲載しています。

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野 2018-4
●有田川町役場企画調整課 TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページ URL https://www.town.aridagawa.lg.jp

VEGETABLE OIL INK